

すぐできる！ ずっと役立つ！

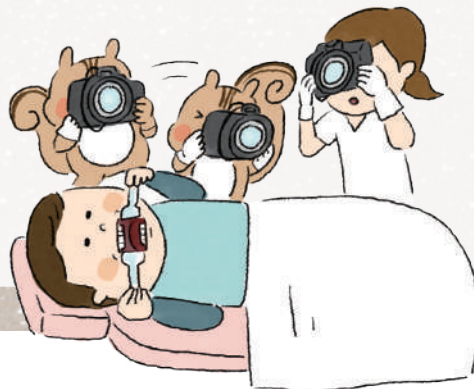
# 口腔内写真 撮影入門

齋藤善広・吉田彩乃 著



## 到達目標

- ▶ 部位ごとの撮影方法・ポイントを理解しよう！
- ▶ 撮影部位に応じた器具の使い方を理解しよう！



## 正面観

**撮影倍率：**1/1.5～1/2倍（全体像を撮る場合、**図1**）、  
1/1.2倍（3+3を撮る場合、**図2**）

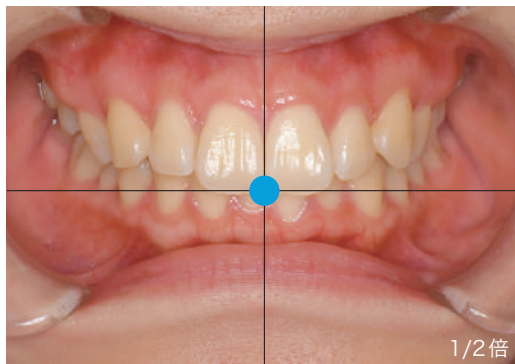
**口角鉤：**口角鉤（大）を左右の口角部に装着し、側方に引っ張ってもらう。さらに口角鉤を歯列から離すように、やや前方に引き上げてもらう（**図3**）

**ミラー：**不使用

**術者ポジション：**8時の位置

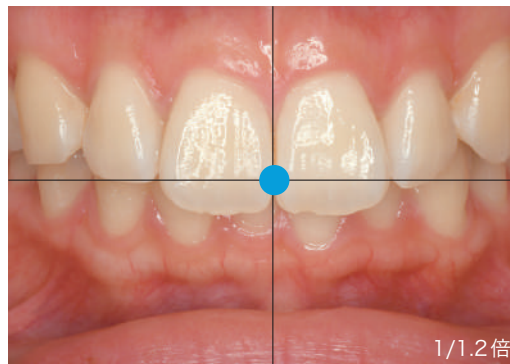
**ポイント：**先に決めておいた撮影倍率で、上顎中切歯の切縁部にピントを合わせる（●）。ファインダーの中央垂線に正中を合わせ、切縁が水平に撮影されるようにカメラの傾きを補正する。ピントが合う位置に身体ごとカメラを前後させ、ピントが合った瞬間にシャッターを切る。

正面観では、咬合平面を完全に水平に撮る場合とやや後ろ上がりに撮影する場合がある（**図4-1②**）。もし咬合平面が後ろ下がりになった場合には再撮影（**図4-③**）



**図1** 正面観

ファインダーの中央に上顎中切歯を合わせ、水平を確認する。ピントは上顎中切歯切縁付近でレンズ側に一番近いところに合わせる



**図2** 前歯部拡大正面観

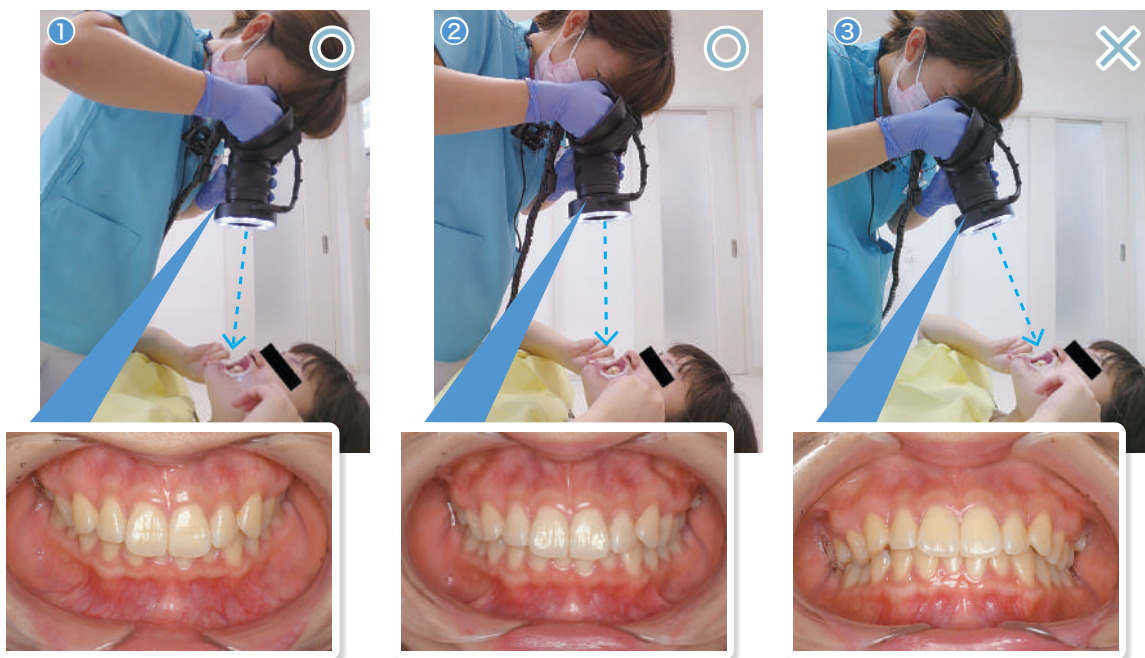
患者ポジションは**図1**のまま、倍率を変更する。拡大するとワーキングディスタンス（焦点距離）は短くなり、患者さんに近寄ることになる





**図3** 口角鉤の使い方

すこし濡らした口角鉤を下唇から滑らせるように位置づける。歯列から引き離すように保持する



**図4** カメラの向きによって変わる正面観の写り方

自分と患者さんの位置関係を把握しておこう。咬合平面が①後ろ上がり、②水平、③後ろ下がり



## これが知りたかった！ カメラのトリセツ ②

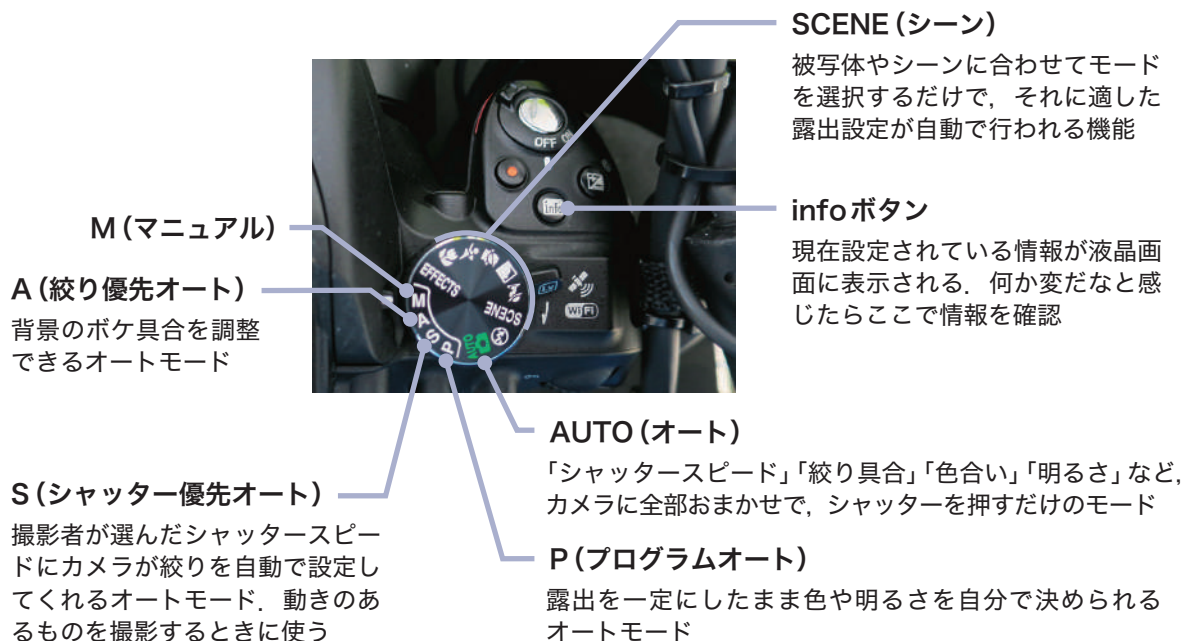
# カメラ初心者を悩ませる 「シャッタースピード」「絞り」「ISO感度」

カメラの上部にある撮影モードダイヤルとは、M、A、S、P、Autoなどを書いてあるところです。口腔内カメラではM(マニュアル)モードを選択します。

マニュアル撮影って、なんか難しそう！と思うかもしれませんが、一度カメラの設定をしてしまえば、あとはいつも同じ仕事だけする究極の楽ちん設定です。いつも同じ明るさで撮影するのに最適です。

一方、A(絞り優先オート)、S(シャッター優先オート)モードの場合、通常のスナップ撮影では、とても便利なのですが、口腔内写真撮影で使おうとすると撮影条件をそのつど変えてしまうため、シャッターを押すたびに明るかったり暗かったり違った露出になります。これは、歯の表面に反射した光の量でカメラが撮影条件をちょっとずつ変更してしまうために起こる現象です。カメラが張り切って仕事をしすぎるお節介モードだと思ってください。

## カメラ上部



## info 画面

info ボタンを押すと、液晶画面にカメラの設定が表示されます。口腔内撮影の場合には、いつも同じ設定になっていればよいので、見本を置いておくともよいかもしれません。

### シャッタースピードの表示

シャッターボタンを押してから実際に撮影されるまでの時間を示す。これを調整することで動きの表現幅が広がる。口腔内写真撮影では調整する必要はないので、常時1/250~1/60内で固定(当院では1/125)

### 絞り値の表示

「絞り値」を小さくしたり大きくしたりすることでレンズを通る光量を調節して、奥行きを調整することができる

### ISO 感度の表示

カメラに入ってきた光をどの程度増幅させるかの指標。感度が上がれば、暗い場所やスポーツ撮影時の手ブレを防ぐことができるが、高すぎると画質が下がるので注意が必要。200~800の間で医院ごとに使いやすい数値を探しておくとうい

### 撮影モードの表示

現在はマニュアル (M) に設定されている



### その他の表示

画像サイズ (k) や質 (QUAL), マニュアルフォーカス (MF), ホワイトバランス (WB) などを示している



## 📷 模型を用いたミラー練習

カメラの基本操作に慣れたら次に、模型に対してカメラを持たずにミラーを当てる練習です。模型であれば開口量が十分にとれ時間をかけて練習することができるので、ミラーをどのように扱ったら見本のように撮影できるのか、ミラー越しの対象歯列をみながらミラーの角度、カメラ視線の方向、撮影者の立ち位置、などを工夫してみましょう(図6)。

咬合面用ミラーと側方面用(頬側用)ミラーのそれぞれを練習します(図7)。ミラーの先端を歯に近づけたとき、離れたとき、角度を大きく取ったとき、小さくしたとき、部位によってはミラーの持ち方が順手であったり逆手であったり、自分が実際に撮影するときのイメージをつくる練習です。

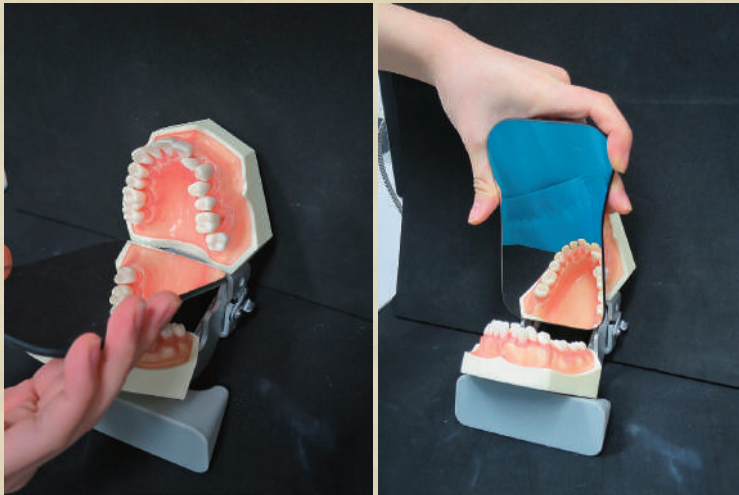


図6 ミラーの当て方(上下咬合面)

実際の口腔内を想定して、ミラー角度や視線の方向を工夫してみる

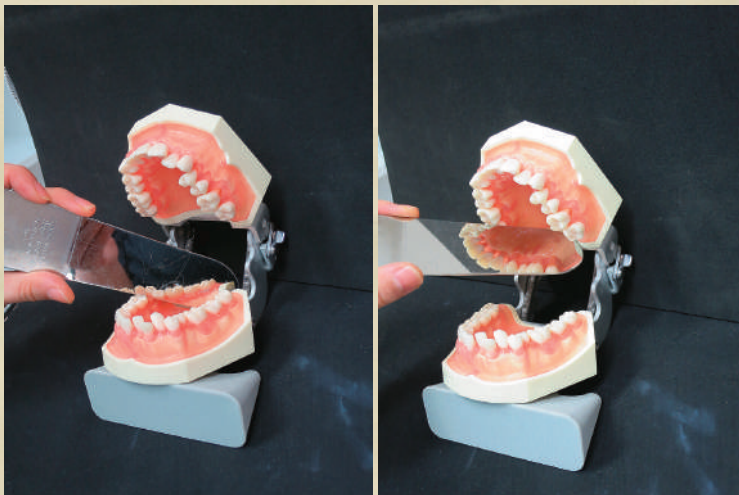


図7 ミラーの当て方(頬側・口蓋側・舌側)

ミラーの把持と手の動かし方を意識する